

立体感・現実感・リアル質感をいつでもどこでも記録する「引出し」の中には「ガラクタ」と「アイデア」が詰まってる

平林 純

1. 立体感や現実感，あるいはリアル質感を，毎日いつでもどこでも記録する

短い自己紹介をすると，こうなります。光学技術や画像工学技術に関連するエンジニアリングやサポートをすることもあれば，雑学・科学系の本を書いたり，雑誌「ソフトウェアデザイン」上で「IT 研究所」として連載記事を書いたり，あるいは雑学研究者として「タモリ倶楽部」や「世界一受けたい授業」などに出演したこともある。……そんな具合で，わかりやすいプロフィールを持ち合わせてはいませんが，ひとつ確かなことは，立体感や現実感，あるいは，リアルな質感を記録するのが大好きだということです。そんな好みにしたがって，眺めた景色や目の前にあるものすべて，立体的にリアルに記録や再現をしたい!という試みを，いつでも・どこでも続けています。

だから，机の引き出しを開ければ，青と赤色のアナグリフ方式や偏光方式などの立体視用メガネや(図 1)，スマホ用の立体撮影キット(図 2)といったガラクタが詰まっています。本記事では，そんな立体感・現実感・リアル質感を記録する毎日の試みを，いくつか紹介してみようと思います。



図 1 引き出しを開ければ，偏光・赤青メガネが入ってる



図 2 スマホ用の 3D 撮影アタッチメントを使った立体視撮影

2. 旅行に向かうリュックには，ステレオカメラや校正用器具を詰め込んで，立体撮影を楽しむ

毎日ポケットに入れて持ち歩くスマホが立体撮影用に改造されているくらいですから，旅行に向かうリュックには，種々の撮影道具を詰め込みます(図 3)。それはたとえば，ステレオ VR180 撮影ができるカメラであったり，撮影画像の色を忠実に補正するためのカラーチャートであったり。あるいは，ステレオ撮影から立体情報を生成させる



図 3 リュックに詰めるステレオカメラや校正器具